

田牧一郎の カリフォルニア稻作便り

第51回

低迷打破のためのチャレンジ

4月下旬から好天が続き、5月に入つて記録的な高温となりました。

このため、種播きの準備作業も急速に進み、5月中旬までに

かなりの面積で種播きを終えました。

5月も下旬になり最高気温も平年並みの30℃程度に戻りましたが、夏に向かっていることは間違いない、35℃を超える日も珍しくなくなりました。

●作付け面積の減少

この暑さで稻の生育は順調に進んでいます。5月中旬に種をまいたものも2週間ほどで水田が緑に見えるようになります。若苗の中には、波にもまれ水田の岸に寄せられてしまうものもあります。

そんな水田風景の中で、今年は耕されたまま種播きされないで休耕田として放置されている水田が見られます。カリフォルニアの昨年の作付け面積の15%～20%が休耕田

●水はあるけど水不足

まず水問題です。

水田地帯で必要な水は確保でき、100%の作付けが可能となりました。

しかし一部のダムでは平年の50%前後しか水のないところもあり、水不足になつているところもあります。

電力不足も相変わらず改善されないため、暑い夏に向け水力発電用の水の確保も問題になっています。

このような状況もあって、4月下旬に水利用組合が、水を買い戻す提案を生産者に提示しました。私の地域では1エーカー当たり160ドルであり、借地代金にも満たない額です。しかし自作地の場合は確実に入る収入であり、最近のコメ相場で考えると悪くない金額にも見えます。

このため、水利用組合の提案を受け、水を販売してコメの作付けを中止し、休耕田となつたものがあります。

●底を打つていな国際相場

もう一つは2001年産の米価格の低迷

となりそうです。それには大きな理由が3つありました。

●大手精米会社の倒産ショック



たまき・いちろう／1952年12月
郡山市生まれ。中学卒業と同時に就農。89年渡米。カリifornia州で稻作（約80ha）を開始。
タマキ・ファームス・ジャパン
TEL045-781-6426 FAX 045-781-6427

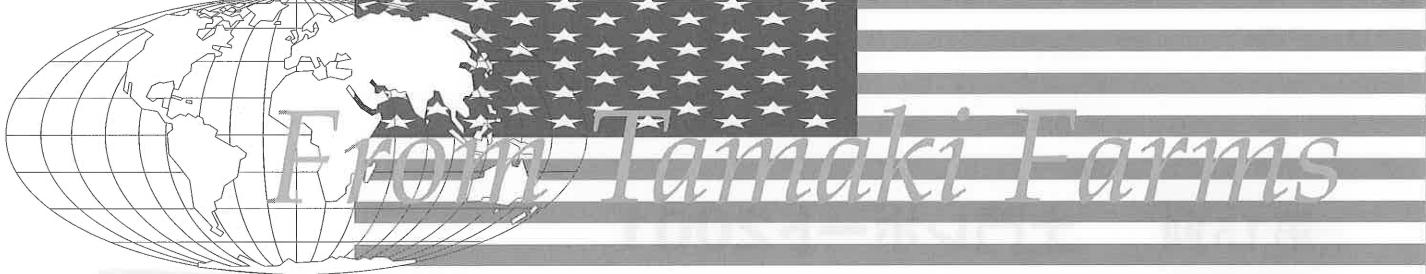
精米会社も厳しい国内競争があり、高い原料を購入する余裕はありません。そして輸出も国際相場が低く、カリifornニアのコメよりも安いものが流通しており、簡単に販売できる状況にはありません。

今年の生産が大きく減少しない限り、カリifornニア米の価格の上昇は考えられません。

●大手精米会社の倒産ショック

それに追い打ちをかけるようにカリifornニアのコメ業界に悪いニュースが流れました。ここ数年急成長し中堅から大手へと飛躍

アの昨年の作付け面積の15%～20%が休耕田



していた精米会社が、4月末に裁判所へ会社再建のための申請をしました。事実上の倒産で、再建計画を検討しながら裁判所の監視下で運営をする状況になりました。最悪の場合は会社の精算もありえ、コメ業界に大きなショックを与えていきます。

これが生産者にも影響を及ぼしています。間接的には粗価格の回復予測がさらに遅退したこと。直接的には、今まで粗を販売していた生産者に、昨年産の粗代金の一部が未払いとなり回収できないでいること。そして今年は買い入れの契約ができないと多くの生産者が行き場を失つてしまつたこともショックです。

年間20万t程度の精米能力のある工場を持つている会社で、その能力に見合うだけの粗を購入していた所です。これが作付け時期にいきなり契約が不可能となってしまい、今まで販売していた生産者は別な買い手を探しましたが、各社2000年産の持ち越し在庫もあり、思うようにはいかなかつたようです。

各社とも今年は積極的に量を増やす状況にもないことから、多くの売り場を失った生産者と契約することはできなかつたようです。これが3つ目の理由です。

これらの事情から休耕地が目立つ今年のカリフォルニアの水田地帯です。自由経済の中でのコメ生産であるため、コメの価格見通しや他の作物、あるいは水

販売の収入などとの比較で、コメ生産が優位なときは生産が拡大し、比較で劣ると作付け面積が減少し、生産量が減少します。生産量が減少し価格が上昇すると、また作付け面積が拡大し生産量が増加します。

しかし極端に増加してしまうと今年のようになります。

●乾田直播栽培への挑戦

今年も乾田直播でコシヒカリなど短粒種の種を播きました。

一部早めに種播き作業をしたのですが、結局、本格的に水を入れた5月上旬まで種が土の中で発芽を待つていてる状態となり、あまり良い結果とはなりませんでした。

種を播いてから雨にあたつたものは発芽が早く、生育に大きな差が出てしまいました。早期播種による早期生青の確保には、いくつかの改善策が必要なことがわかりました。

収量が良かつたり悪かつたりとまだ不安定です。これはまだカリフォルニアで安定収量確保のための生産技術が確立していないことが原因です。

しかしこの技術も、乾田直播にとり組む生産者の数が増えることで、成功例や失敗例から何をどうすれば良いのかが次第につきりしてくるはずです。

理論的に問題ない直播技術ですが、実際の水田で、そして異なる気象条件のなかで計画通りにいかないことが発生してしまいます。成功の確率を高めるための現場対応が必要となります。

それぞれの生産者がいろいろな工夫をしながら取り組んでおり、出会うとその話題で盛り上がります。

善をかい手から求められていました。日本の栽培方法やこちらでの栽培に関する情報収集などをして研究していたのですが、なかなか成果が見えなかつたとのことでいた。

そこで今年は乾田直播でコシヒカリを栽培することにしたのでした。彼は以前、中粒種を乾田直播で栽培した経験もあり、各種の機械類も持つていてるため簡単に切り替えができたようです。

カリフォルニアでコシヒカリなど短粒種を乾田直播栽培をしているのはごく少数ですが、一般的な栽培方法でできたものと比較するとコメの品質は確実に向上しています。

しかし、5月になつて種播きをしたほとんどの部分は、高温にも助けられ順調に発芽しました。同時に雑草も発生し始め、除草剤の散布作業に追われています。

長年コシヒカリを作ってきた知人がコメの品質向上対策として、乾田直播に取り組むことになりました。彼は私の以前からの知り合いで、コシヒカリやあきたこまちを作っていましたが、それらの粒が小さいことや胴割れが多いことなどから、品質の改